

2020年10月14日

台湾における観光旅行の現状と コロナ後に向けたインバウンド施策について

公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所（研修生） 金子 翔平

1. コロナ禍における台湾人の観光旅行の現状と旅行意欲

コロナ禍において海外旅行ができない状況の中、台湾では海外旅行の代替として域内旅行の需要が増えている。7月の台湾域内線航空便旅客数は前年同月比10%増の約70万人となっており、コロナ本格化前の1月の約38万人、今年最低だった4月の約19万人から大幅に増加している。海外旅行に行きたい旅行者のニーズを満たすため、離島を豪華客船で巡るツアーや、海外旅行時の出入境審査等の一連の流れを体験できる疑似出入境イベントが人気を集めており、台湾人の海外旅行を欲する熱い思いが感じられる。

日本政府観光局（JNTO）が台湾市場向けSNS上で実施した「感染状況が落ち着いたら訪れたい日本の場所を書き込む」キャンペーンには多くのコメントが寄せられ、訪日旅行の意欲の高さが証明されている。福岡に関して多かったのは、もつ鍋や屋台、明太子等のグルメや、キャナルシティでのショッピングに関するコメントで、その他に北九州や門司港に行きたいというコメントも見られた。

2. 2020 台北国際観光博覧会（TTE2020）での福岡県 PR

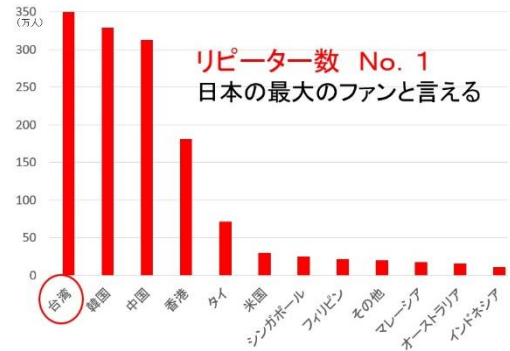
台湾では、4つの防疫対策（電話番号の登録、マスクの着用、検温、アルコール消毒）を行った上で、旅行博が開催されている。8月28日～31日には、2020台北国際観光博覧会（TTE2020）が、例年より縮小した形で開催されたが、来場者は4日間合計で19万人を超え、大盛況であった。JNTOが設置した日本ブース内ステージにおいて、福岡県のPR動画を上映し、その後、動画と絡めた福岡県クイズを実施したところ、来場者の福岡への関心は高く、50名程のギャラリーで大いに盛り上がった（写真1）。クイズでは、「日本地図から福岡の位置を当てる」という基本問題から、「福岡空港から博多駅までの移動に要する時間」や「太宰府天満宮に祀られている神」について問う発展問題まで用意したが、どの問題もすぐに正解が出たため、台湾人の福岡に関する知識が豊富であることが改めて分かった。



（写真1）福岡県クイズの様子

3. 台湾人訪日観光客の特徴とコロナ後に向けたインバウンド施策について

台湾人訪日観光客は、他の国・地域からの訪日観光客とは異なり、旅行会社を通じて旅行を手配する割合が高いという特徴がある。旅行手配方法で、団体ツアー参加及び個人旅行パッケージの割合を合計すると約 35%¹であり、国・地域別で最も高い。台湾に次いでリピーター数が多い韓国でも同割合は約 15%にとどまっていることから、台湾人の旅行会社を通じた手配の割合がいかに高いかが分かる。



(図1) 国籍・地域別訪日リピーター数
※訪日外国人消費動向調査 (観光庁) を基に筆者作成

また、台湾人訪日観光客はリピーターが多く、2019年に観光庁が実施した調査によると、台湾の国籍・地域別訪日リピーター数は約 350 万人で第1位となっている(図1)。訪日回数の増加に伴い訪問地が多様化し、東京・大阪・京都等のゴールデンルート以外への訪問が増える。これは福岡県のような地方都市にもよりチャンスがあることを示しており、実際に初回訪日時の福岡県への訪問率は約5%だが、2回目以降は約9%に上昇している。

以上のような特徴を持つ台湾人訪日観光客に福岡県に来てもらうためには、こういった取り組みが求められるのか。

まず、福岡に何度も来てくれるディープなファンを作るための仕掛け作りが大事ではないかと考える。何度も訪問回数を重ねること自体をエンタメ化・称号化し、再訪の動機としてもらいたい。観光客の目的地となるような商業・エンタメ施設、飲食店等における個別の取り組みに加え、自治体においてはそういった個別の取り組みをうまくまとめて観光PRに繋げていきたい。旅行博でのPR活動中も、複数の台湾人から「福岡には何回も行ったことがあるよ」と誇らしげに声を掛けられた。そういったディープなファンがエンタメ化・称号化されたステータスを自身のSNSで発信してくれれば、良い循環が生まれるのではないかと考える。

また、旅行会社を通じて旅行を手配する旅行者が約35%もいるため、旅行会社へのPRも軽視できない。旅行会社によると、旅行会社を通じた手配の割合が高い理由は次の2つであった。1つ目は、リピーターが多い台湾人訪日観光客は情報収集の難しさや交通の不便さ等が理由で、個人旅行では行きにくいニッチな所に行きたいという需要があること。2つ目は、台湾人は家族旅行(子どもやシニアを含む)が多く、安心して参加できるツアーの需要があること。こういった現地の需要を考慮した上でPRすることも不可欠であると考えられる。

今後も、台湾で多くの人々の生の声に耳を傾け、福岡県に来てもらうために何が必要なのか、情報収集及びフィードバックに努めていきたい。

¹ 出典：観光庁 訪日外国人消費動向調査 (2019年)